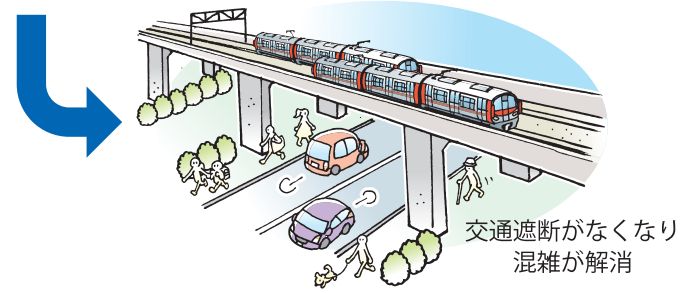


事業の効果

1 交通混雑の解消



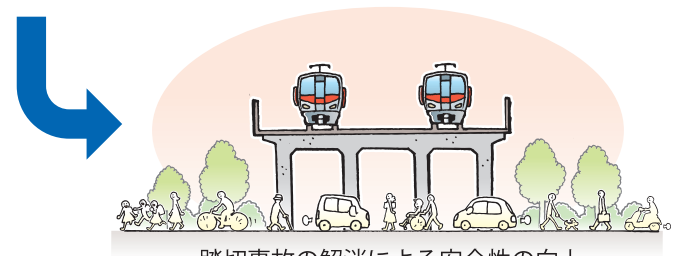
毎日繰り返される踏切の交通遮断により混雑が発生し、日常生活や経済活動に悪影響を及ぼしています。鉄道の立体化で踏切をなくすことにより交通遮断がなくなり、混雑が解消します。



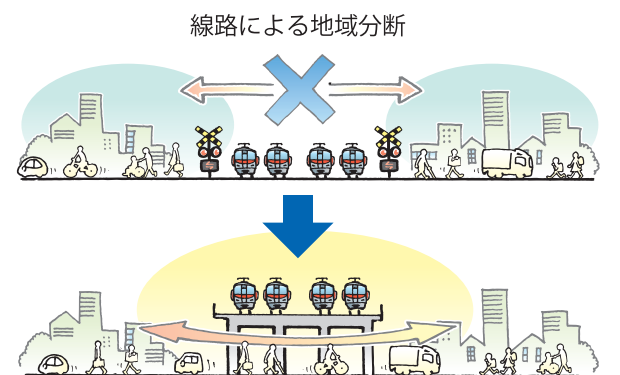
2 安全性の向上



踏切の存在により、日常生活や通勤・通学時に踏切の横断を余儀なくされている方々は、踏切内での事故など、危険と隣り合わせな状態が続いています。鉄道の立体化により踏切事故がなくなり、安全性が向上します。

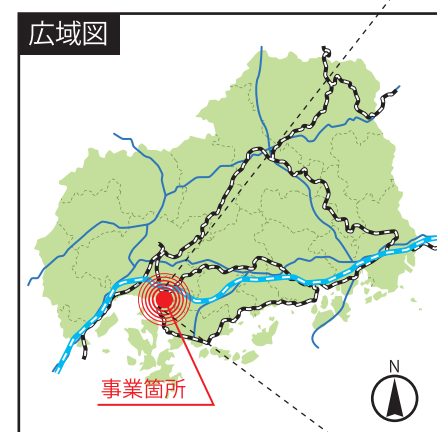


3 地域分断の解消



鉄道により地域間の移動が制限され、地域が分断された状態が続いています。鉄道の立体化によって地域分断が解消され、移動の利便性が向上します。

事業位置図



事業の経緯

平成 5 年 4 月	事業採択
平成 11 年 3 月	都市計画決定（当初計画）
平成 14 年 3 月	都市計画事業の認可
平成 24 年 2 月	事業の見直し検討に着手する旨を公表
平成 30 年 2 月	広島県、広島市、府中町、海田町の4者で見直し内容に合意
令和 元 年 5 月	都市計画変更
令和 元 年 10 月	都市計画事業の認可

お問い合わせ先



広島県

土木建築局 都市環境整備課 | 〒730-8511 広島市中区基町10-52 TEL:082-228-2111
西部建設事務所 東部連続立体交差事業課 | 〒732-0816 広島市南区比治山本町16-12 TEL:082-250-8151



広島市

道路交通局 道路部 東部地区連続立体交差整備事務所 | 〒736-8501 広島市安芸区船越南三丁目4-36 TEL:082-821-5058

2020. 9

広島市東部地区 連続立体交差事業

道路と鉄道の立体交差で都市機能を向上

広島市東部地区 連続立体交差事業とは

事業の目的

広島市東部地区連続立体交差事業は、広島都市圏東部地域（広島市南区・安芸区、安芸郡府中町及び海田町）におけるJR山陽本線及びJR呉線を高架化し、道路と鉄道を連続的に立体交差化する事業であり、広島県と広島市の共同事業として実施しています。当地域は、江戸時代には西国街道（山陽道）の宿駅として繁栄し、その後、明治時代の鉄道の開通により、交通の要衝として多くの産業の集積をもたらし、発展を重ねてきました。しかしながら、鉄道による市街地の分断が、効率的な基盤整備を阻害するとともに、踏切遮断による慢性的な交通渋滞を引き起こすなど、地域の拠点としての役割を十分に発揮しきれない状況となっています。このため、当事業により複数の踏切を除却し、道路と鉄道を立体交差化することで、交通混雑の解消や道路と鉄道それぞれの安全性を向上させるとともに、鉄道により分断された市街地の一体化を図ることが可能となります。さらに、関連事業である都市計画道路事業や土地区画整理事業を併せて実施することにより、都市交通の円滑化や都市機能の向上など、まちづくりへの大きな効果が期待されます。

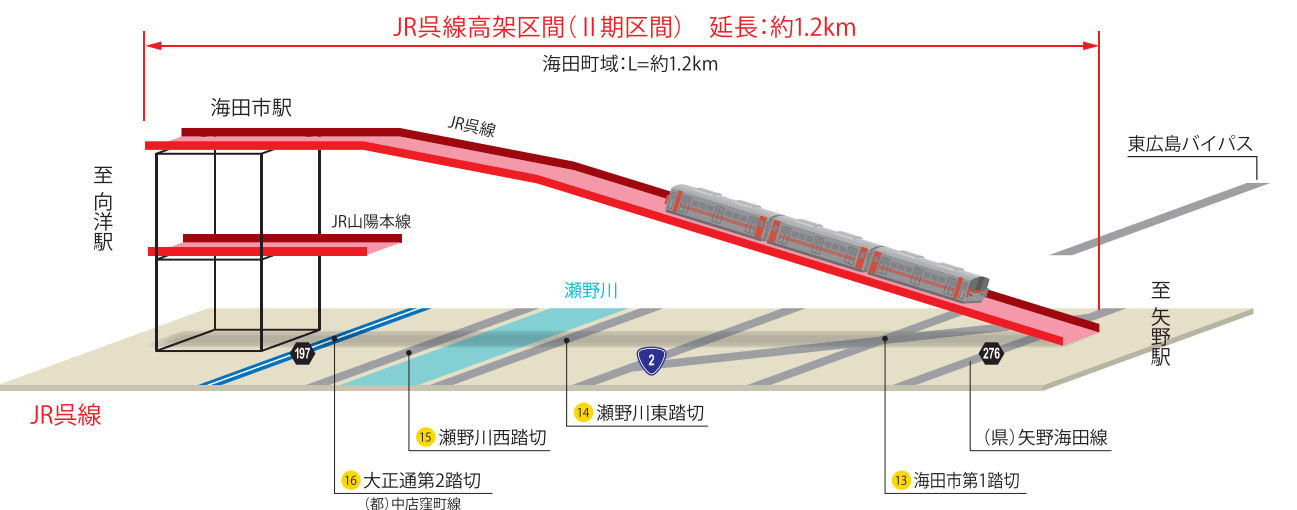
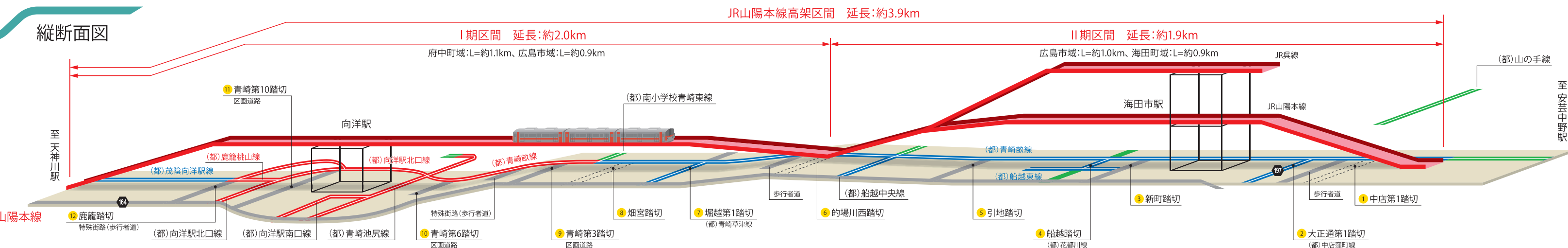
事業の概要

区間	JR 山陽本線	安芸郡海田町成本～安芸郡府中町鹿籠一丁目	
	JR 呉線	安芸郡海田町南大正町～安芸郡海田町新町（海田市駅）	
高架化延長	約 5.1 km（山陽本線約 3.9 km、呉線約 1.2 km）		
除却踏切	JR 山陽本線	12 箇所	
	JR 呉線	4 箇所	
関連事業	都市計画道路	7 路線	
	土地区画整理事業	向洋駅周辺土地区画整理事業（府中町施行）	約 12.2 ha
		向洋駅周辺青崎土地区画整理事業（広島市施行）	約 6.1 ha
		海田市駅南口土地区画整理事業（海田町施行）	約 2.0 ha

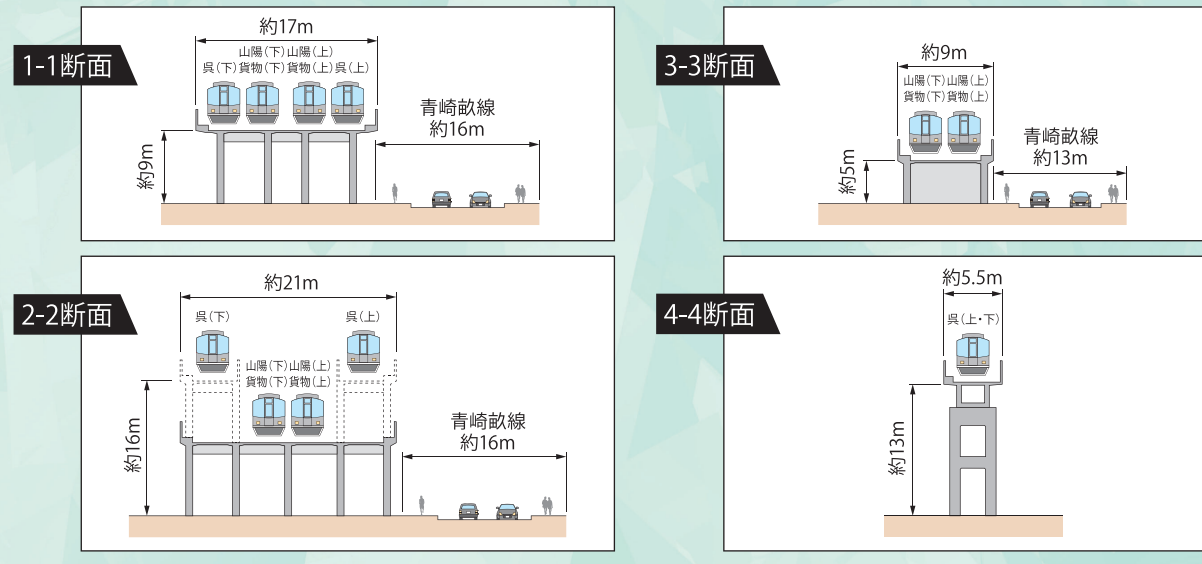
広島市東部地区連続立体交差事業 計画図



縦断面図



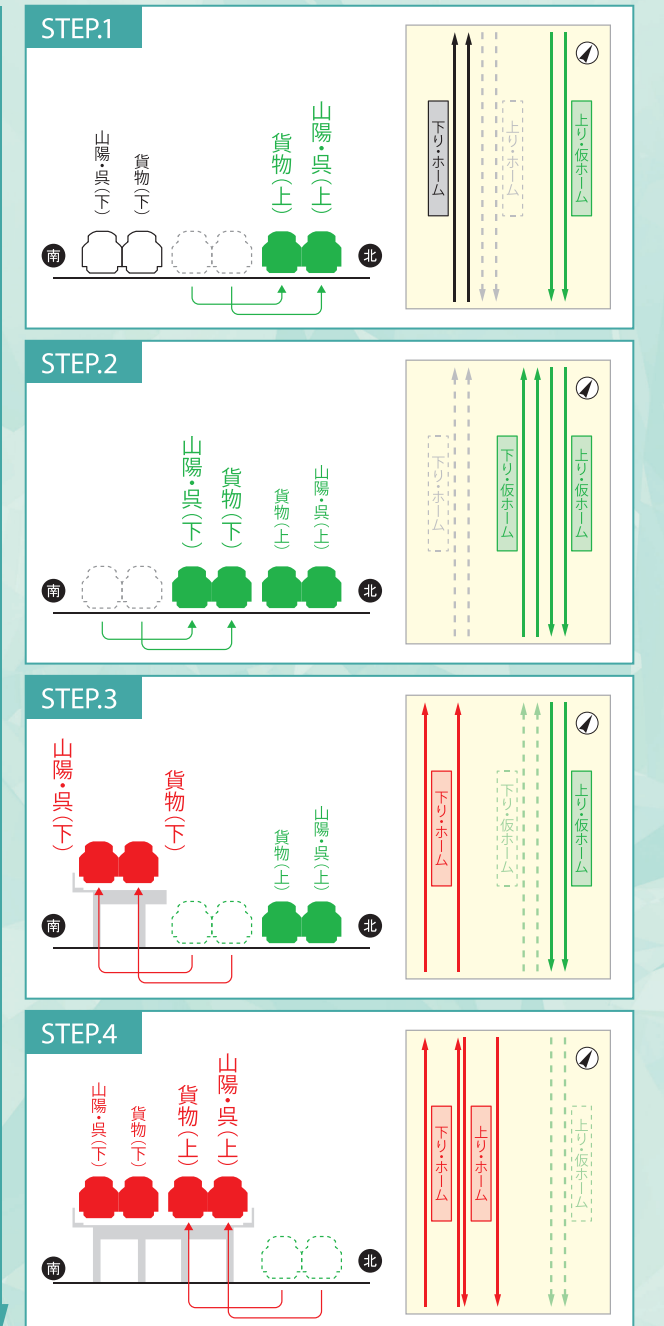
横断面図



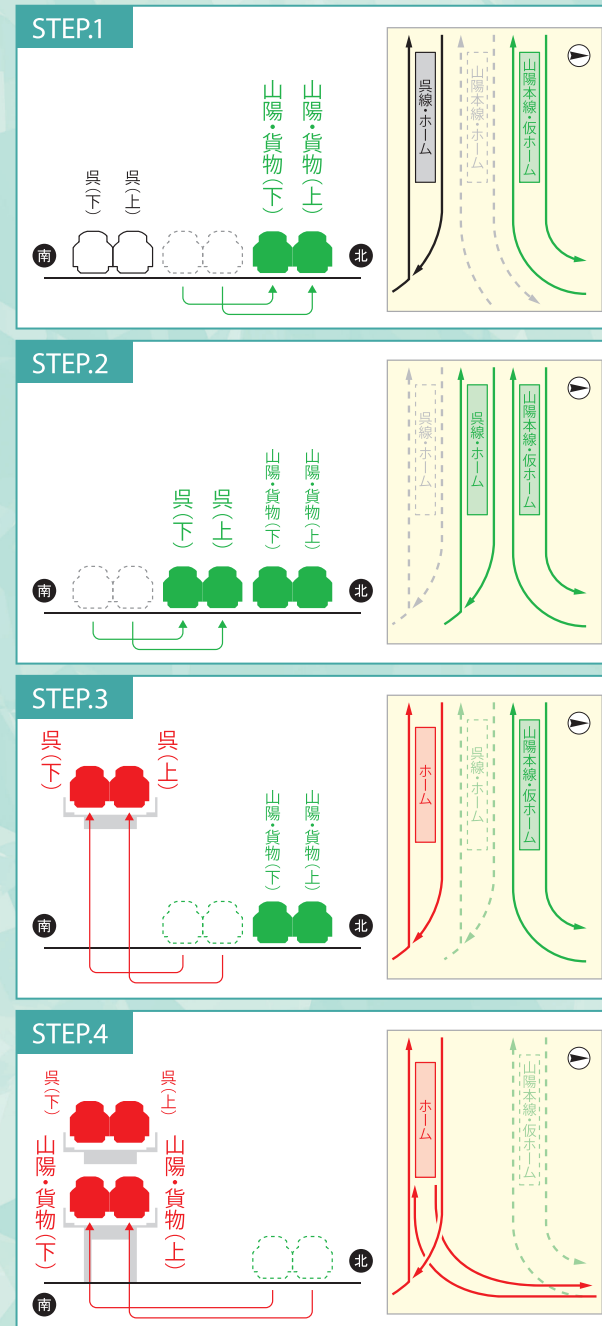
高架橋の高さは今後の設計で変更となる可能性があります。運行路線形態はI期完成時のものとなります。

施工順序図

❖ I期区間(向洋駅周辺)の施工順序



❖ II期区間(海田市駅周辺)の施工順序



運行路線形態はI期完成時のものとなります。

II期区間の施工順序は今後の設計で変更となる可能性があります。

凡例: ○ 現況 ● 仮設 ● 完成